

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0873700488		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館玉造		
所在地	茨城県行方市玉造甲476-1 (電話) 0299-35-6201		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】(平成 20 年 7 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4)利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境の中、広々とした庭に囲まれたホームである。庭には、家庭菜園が作られて、ナス・スイカ・かぼちゃ・とうもろこしなどが育てられている。その野菜などは、食卓にならび、味わい、季節感を感じている。ホームは保健センターやショッピングセンターが近くにあるため、利用者は、買い物や図書を借りたりと活用されている。地域との交流は、小・中学校のボランティア活動を受け入れ、お互いに協力している体制が確立されている。利用者はお互いに気を使いながら、ゆったりとした生活を営んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題を職員で話し合い、出来るところから取り組んできた。市町村への働きかけや同業者との交流、外部研修への参加等、意識しながら取り組んでいる。また、ポータブルトイレが隠れるようにカーテンを手作りし、プライバシーの確保に努めるようにした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で、評価に取り組み、管理者がまとめた。話し合いは職員が納得するまで行われた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	推進会議は定期的に行われている。会議の内容は、利用者と一緒に食事やイベントに参加してもらい、ホームを理解してもらうようにしている。会議内容は、職員にも報告され、出席者には郵送されている。話し合った内容は、利用者のケアのサービスにつなげていくように心がけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱は設置されているが、投函されたことはない。家族は、直接要望を伝えてくることがある。その意見や要望はその都度、職員と話し合い、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の小・中学校の職場体験を受け入れ、地域との連携をはかるように努めている。この頃は、生徒の保護者の参加もあるようになってきている。地域との関わりが、広がっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者が健康に暮らし続けることを支えていけるサービスの理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を共有し、笑顔を忘れず、利用者一人ひとりに向き合うよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小・中学生から運動会や祭りの参加をしている。また、ホームのイベントの参加を地域に呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を心に留め、ケアの向上に努めてきた。今回も職員全員と管理者で話し合い、自己評価をまとめている。自己評価をすると、改善点などがみえて、話し合うきっかけになっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。地域からの意見を聞き、職員の報告し、サービス向上に活かしている。		

茨城県 グループホームいっしん館玉造

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口相談に出向いたり、ホームからの情報を提供し連携が活発になるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回のお便りを発行し、利用者一人ひとりの個別に合わせて報告をしている。体調の変化などは、随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。家族からは面会に来たときに意見等あるときがある。意見を頂いた時には、随時、話し合い解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にダメージの無いように最小限に留めている。信頼関係を築けるように、職員全員が最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回の社内研修に参加して、自己の向上に努めている。外部研修にも参加できる体制をとるように努めている。研修後は、伝達講習会を開き、職員間の統一を図るようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームとイベントを共に行い、交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居や見学等受け入れている。詳細な状況を把握し、利用者が安心して生活できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に生活を送り、喜怒哀楽を感じ、職員が互いに学びあう姿勢を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の思いを尊重できるように心がけている。すぐにできない場合は、家族や職員と話し合い、利用者の思いに添えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を取り入れ、職員間で意見を出し合い介護計画を作成している。作成された計画は、家族に意見を頂き、サインしてもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間内に計画の見直しを行っている。利用者の状況や介護度が変更になった時には、随時行っている。		計画の見直しの際、利用者一人ひとりの計画書に基づいたサービス内容を明確に記入されると、次の勤務帯の職員がわかりやすくなると思う。早期ケアの提供につながることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に応じて、グループホーム、有料老人ホーム、介護付賃貸住宅等の対応できるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関に受診している。夜間は、電話で医師の指示を得ることが出来る体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と話し合いながら看取りの希望があれば行う体制はできている。看護師に相談・協力することが出来るようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に不快な言葉かけをしないよう取り組んでいる。一人ひとりの誇りを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、支援している。利用者の希望に添えるように、職員で話し合って支援できる体制をとっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で、家庭菜園で作った野菜・果物が食卓にならび、楽しみながら食事している。利用者の方には出来る範囲での準備や片付けを行なって頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望時間や希望日に入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の性格や能力に合わせた役割を持っていただくような支援をしている。季節の行事やレクを行い、楽しむこと・笑うことを多く取り入れるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外に出る機会を取り入れている。外食などにも出かけている。また、ひとりの利用者の生活習慣でもある散歩も出来るような支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。夜間時は防犯のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。大規模災害に備えて備蓄を準備している。		訓練はされ、安全が確保されていると考えるが、地域での避難場所等の理解が乏しい。全員での避難場所の再確認をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて食事量や水分量の支援をしている。体調不良時などは、医師に報告し、記録に残し、職員が把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や写真を飾り、家庭的な雰囲気作りに工夫している。畳のスペースがあり、落ち着いた空間がつけられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れている調度品を持ち込んでもらい、安心できる居室を工夫されている。利用者の希望や状態によって、畳にしたりベッドのすることが出来るように支援されている。		